

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産事業費 項：林業費 目：林道費

事業名 白山林道利用促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 治山課 水源林保全係 電話番号：058-272-1111 (内 3165)

E-mail： c11519@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 27,500 千円 (前年度予算額：27,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500
要求額	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500
決定額	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・白山林道は昭和49年に森林開発公団から岐阜県に、昭和51年に岐阜県林業公社((公社)岐阜県森林公社)に移管され、昭和52年に供用を開始した。
- ・平成30年度までに361万台(累計)が利用してきたが、平成6年をピークに利用台数は減少傾向にあり、平成24年から26年までの3ヶ年の平均利用台数は62,521台となった。
- ・白山林道の利用台数の増加に向け、(公社)岐阜県森林公社、(公財)石川県林業公社、白川村、白山市などと連携してイベントを開催するなどさまざまな取り組みを行っている。
- ・今後も広域的観光道路として積極的に活用していくため、平成27年から白山林道の新愛称を「白山白川郷ホワイトロード」とし、通行料金を約半額に値下げした。
- ・料金の値下げ及び積極的なPRにより、平成27年から平成30年までの4ヶ年の平均利用台数は64,293台へ増加したものの利用料収入は減少した。また、昨今の豪雨災害やコロナ禍の影響を受け、利用台数及び利用料収入の減少が見込まれることから、(公社)岐阜県森林公社の白山林道会計に不足が生じることとなった。

- ・こうしたことから白山林道を適切に管理運営していくため、財政的支援が必要である。

(2) 事業内容

【補助対象業務】

白山林道維持管理運営費用（人件費、旅費、需用費、料金徴収委託料等）

【補助対象及び補助率並びに補助限度額】

維持管理運営費の 10/10 以内

(3) 県負担・補助率の考え方

白山林道は、森林開発公団から岐阜県、そして林業公社へ移管されており、監督官庁である岐阜県が（公社）岐阜県森林公社の事業運営に支障のないよう支援するのが妥当である。また、林道利用者の増加は、岐阜県の地域活性化、観光振興につながる。

補助率は、林道の管理運営に支障を来さないよう、不足分を補助するため 10/10 とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
補助金	27,500	(公社) 岐阜県森林公社白山林道管理運営費に対する助成
合計	27,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

料金の見直しについて石川県と合意済み。

(2) 後年度の財政負担

白山林道の運営に支障を来さないよう、後年度においてその支援が必要不可欠である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	白山林道利用促進事業費補助金
補助事業者（団体）	公益社団法人岐阜県森林公社 (理由) 白山林道管理者であるため
補助事業の概要	(目的) 白山林道の運営基盤の安定化 (内容) 道路管理者に対する運営費補助
補助率・補助単価等	定額・ <u>定率</u> ・その他 (内容) 維持管理運営費の 10/10 (理由) 林道の管理運営に支障を来さないため
補助効果	白山林道の運営基盤の安定化と利用台数の増
終期の設定	終期 4 年度 (理由) 白山白川郷ホワイトロード経営改善計画の終期

(事業目標)

<p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>白山林道の利用料金値下げによる、(公社)岐阜県森林公社の白山林道会計の収入減額により白山林道の運営に支障を来さないようにするとともに、白山林道の利用台数を 64,000 台とする。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26 年度末)	目標 (R2 年度末)	目標 (終期)
① 白山林道利用台数	55,714	64,000	64,000
②			

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績	27,500千円	27,500千円	27,500千円	(予算額) 27,500千円	(要求額) 27,500千円
指標①目標	66,000 台	66,000 台	66,000 台	64,000 台	64,000 台
指標①実績	59,034 台	59,351 台	47,154 台	(推計値) 8,000 台	(推計値) 64,000 台
指標①達成率	89%	90%	71%	(推計値) 8%	(推計値) 100%
指標②目標					
指標②実績				(推計値)	(推計値)
指標②達成率	%	%	%	(推計値) %	(推計値) %

(前年度の成果)

令和元年度の利用台数は、47,154台であった。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

昭和52年の供用開始後、40年以上経過し、補修・改良に毎年多大な経費が必要となっている。また、利用台数は供用期間（特に土日祝日）の天候や景気動向、燃料費の価格に左右される側面を持っている。

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）

○：必要性が高い △：必要性が低い

(評価)

○

白山林道を広域的観光道路として積極的に活用していくため、新愛称を決定し通行料金を値下げした。利用台数増加による観光客誘致が見込まれる一方、収入が減少したことから、事業を実施しなければ白山林道の運営に支障を来すことになる。

・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）

○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている

△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

○

愛称変更及び料金値下げについて、積極的にPRを行った結果、料金値下げ前3ヶ年の平均利用台数は62,521台であったが、値下げ後4ヶ年の平均は64,293台に増加しており、期待以上の効果が得られている。

・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）

○：効率化は図られている △：向上の余地がある

(評価)

○

経営改善計画に基づき、事業の実施方法の効率化は図られている。

(事業の見直し検討)

白山林道の運営を安定化させ、利用台数の増加を図るためには、道路管理者である（公社）岐阜県森林公社への支援が必要不可欠である。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止

(理由) 白山林道の運営安定化に必要な不可欠であるため。